

## 撤去されたオイルフェンス

### ■オイルフェンスの撤去による通水の改善

今回の調査では、導流堤潟湖側に設置されていたオイルフェンス (Fig.1) の撤去 (Fig.2) を確認した。オイルフェンスの設置は2018年4月に確認しており、2年半以上にわたって設置されていたものである。導流堤の水門、及び一部を低くした通水部 (Fig.3) は昨年設置されていたが、オイルフェンスがあるため七北田川・潟湖間の通水はスムーズではなかった。また、生物が潟湖内へ入り込むことも難しかったと思われる。今年の調査で2月～6月にかけて52匹のイシガレイの稚魚を採集したが、潟湖内で採集したのは1匹のみである。

震災前や、津波で導流堤が破壊された後は通水がスムーズで、潟湖内には多くのイシガレイの稚魚が入り込んでいた。七北田川河口には以前海水浴場があり、干潟をわたって海へ行くための橋が設置されていた。現在は橋脚が残るのみであるが (Fig.3) , その付近でも多くのイシガレイが採集された。オイルフェンスが撤去されたことで、水と生物の出入りがスムーズになることは確実であろう。来年は潟湖内でイシガレイを始めとして、多くの生物が確認できることを期待したい。



(Fig.1 オイルフェンス 2020. 5.10)



(Fig.2 オイルフェンスが撤去された導流堤) ※黄色丸は同じ水門



(Fig.3 通水部)